

第4群(活動報告)

リハ専門職から仕掛ける多職種の「輪」

発表者(筆頭者)所属・氏名 東部保健福祉事務所 技術主査 浅野直子
松木儀浩

キーワード:多職種連携, リハ専門職, 障害児・障害者・高齢者の地域包括ケアシステム

I はじめに

石巻圏域の障害児・者, 高齢者等の支援において, 医療・福祉・教育・行政の多職種支援者がもっと連携が必要と感じながらもそれを実践できずにいるという地域課題が見えてきた。その解決を図るために「リハビリテーション」という切り口から地域の多職種連携の取組を行ったので報告する。

この取組は, 医療以外の現場に触れる機会の少ないリハ専門職が, 福祉・教育・行政の地域支援にも積極的に視野を広げ, 自分たちに求められている役割を理解する一方, 多職種支援者に対してもリハビリテーションの考え方を分かりやすく伝えるという行動を通して, リハ専門職と地域の多職種支援者が, 相互理解及び支援連携できるようになることを目指すものである。

II 方法

「訪問リハビリ」「通所リハビリ」「障害児リハビリ」のテーマ別に, 地域課題解決に向けて同じ志を持つリハ専門職を集め構成した「在宅支援の会」を立ち上げた。(H25～現在)

また, 在宅高齢者のリハビリテーションにおいて急性期・回復期・生活期リハビリテーションのあり方と各役割を多職種に伝え連携を目指す「いしのまきリハスタイルプロジェクト」を開始した。(H29～現在)

III 活動内容

各会の中でリハ専門職が主体的に多職種支援者と連携できるようになるための取組を「地域を絡める」「まめに集まる」「見える形で伝える」の3つのポイントで企画・実践した。そのうち, 以下の取組について紹介する。

①障害児・者の地域支援見学会(障害児リハ部門)

リハ専門職が地域の障害児・者支援の現場を見学・体験することで, 就学前から学校卒業後までのライフステージ全体から, 今必要とされる支援を検討・提供できるようになることを目指す。

②子ども支援相談会(障害児リハ部門)

多職種支援者が子どもの支援に悩んだ時に気軽に相談できる会として, 地域への定着を目指す。

③いしのまきリハスタイルプロジェクト(訪問リハ部門, 通所リハ部門)

リハ専門職がリハビリテーションを多職種支援者にわかりやすく伝え, 連携を実践できるようになることを目指す。「高齢者が自分らしく生活を送るためのリハビリテーション」を作成・普及した。(図1)

IV 考察

課題解決に向けてリハ専門職が集まり取り組める体制ができた。地域の様々な支援に視野を広げながら, 今多職種連携に向けて何をすべきかを主体的に考え行動できるリハ専門職が増えてきた。

リハ専門職が, 地域の医療・福祉・教育・行政の多職種支援者に対し, リハビリテーションでの切り口から様々な取組を仕掛けたことで, 互いに役割の理解を深めることができた。また地域へ積極的に働きかけると地域も変わっていくことをリハ専門職が実感できたことで, 連携に向けて主体的に動き出すモチベーションにつながった。

V おわりに

在宅支援の会は訪問リハ部門が既に自主会となっており, それをモデルに他2部門も自主会となる予定である。今後は3つの自主会の協力を得ながら「いしのまきリハスタイルプロジェクト」を継続し, 地域の多職種支援者同士のつながりをより絡めさせながら, 障害児・障害者・高齢者の地域包括ケアシステムの一つの形として地域に定着できるよう, 引き続き取り組んでいく。